

2004年度中間連結決算説明会資料

2004年10月22日

電子デバイスシステムの業績拡大により增收増益 - 2004年度、史上最高の業績を見込む -



株式会社日立ハイテクノロジーズ

【お問合せ先】

人事総務本部 総務部 IR専門部長 芥川 達哉

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com

<発表目次>

. 2004年度中間期 決算概要

| | |
|------------------|----|
| 2004年度中間期決算ハイライト | 4 |
| 2004年度中間期経営成績 | 5 |
| セグメント別営業概況 | 6 |
| セグメント別主要製品群の動向 | 7 |
| 仕向地別売上高 | 11 |
| 損益計算書 | 12 |
| 貸借対照表 | 13 |
| キャッシュ・フロー計算書 | 14 |

. 2004年度 業績予想

| | |
|------------|----|
| 2004年度業績予想 | 16 |
| セグメント別業績予想 | 17 |

. 経営戦略

| | |
|------|----|
| 経営戦略 | 23 |
| 事業戦略 | 24 |

. 2004年度中間期 決算概要

執行役常務(経理本部長) 三澤 寛

2004年度中間期決算ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益

- ・全項目において、半期ベースでの過去最高値を更新
- ・配当金を中間期・期末予想とも7円50銭から10円に増配

日立電子エンジニアリングのグループ会社化

- ・2004年4月からの連結子会社化により、当社業績に大きく貢献
(統合効果 : 売上高 282億円/期、営業利益 30億円/期)

半導体・液晶市況の改善で、電子デバイスシステムが增收増益

- ・測長SEM、プロセス製造装置、液晶関連装置等を中心に業績が拡大

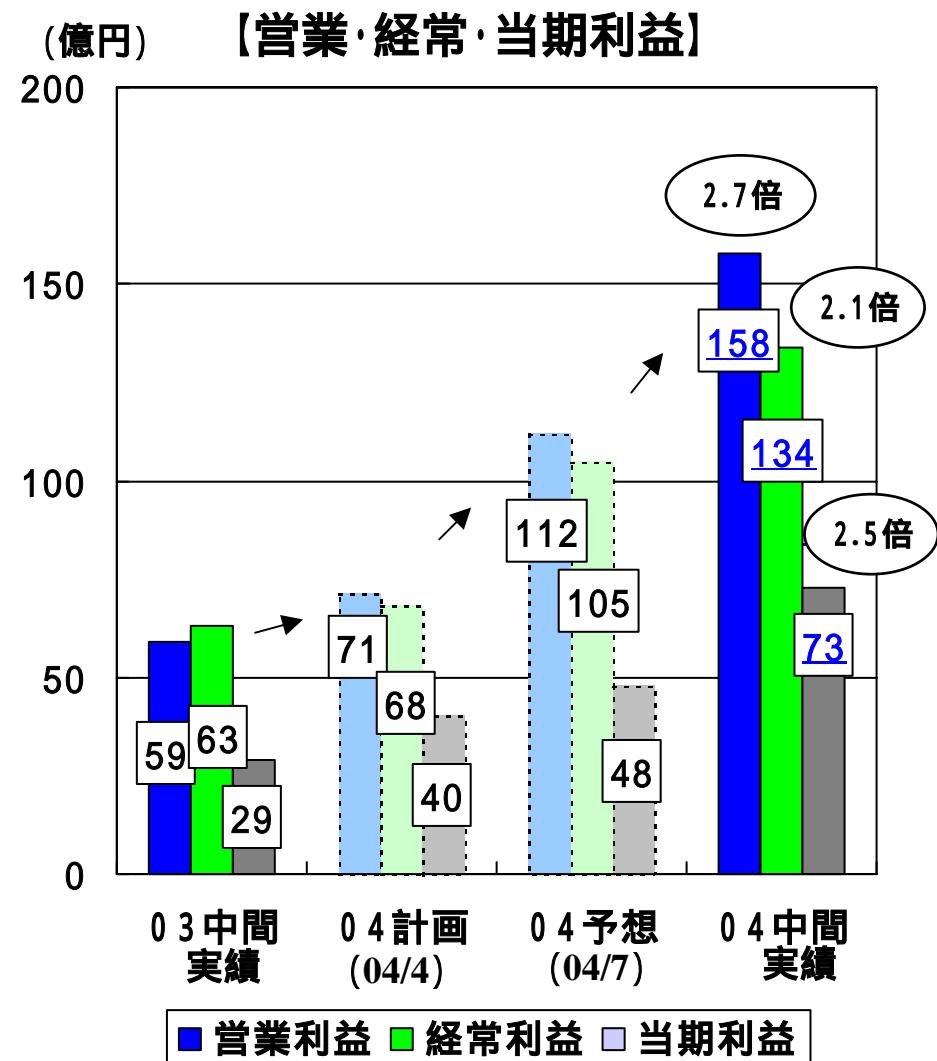
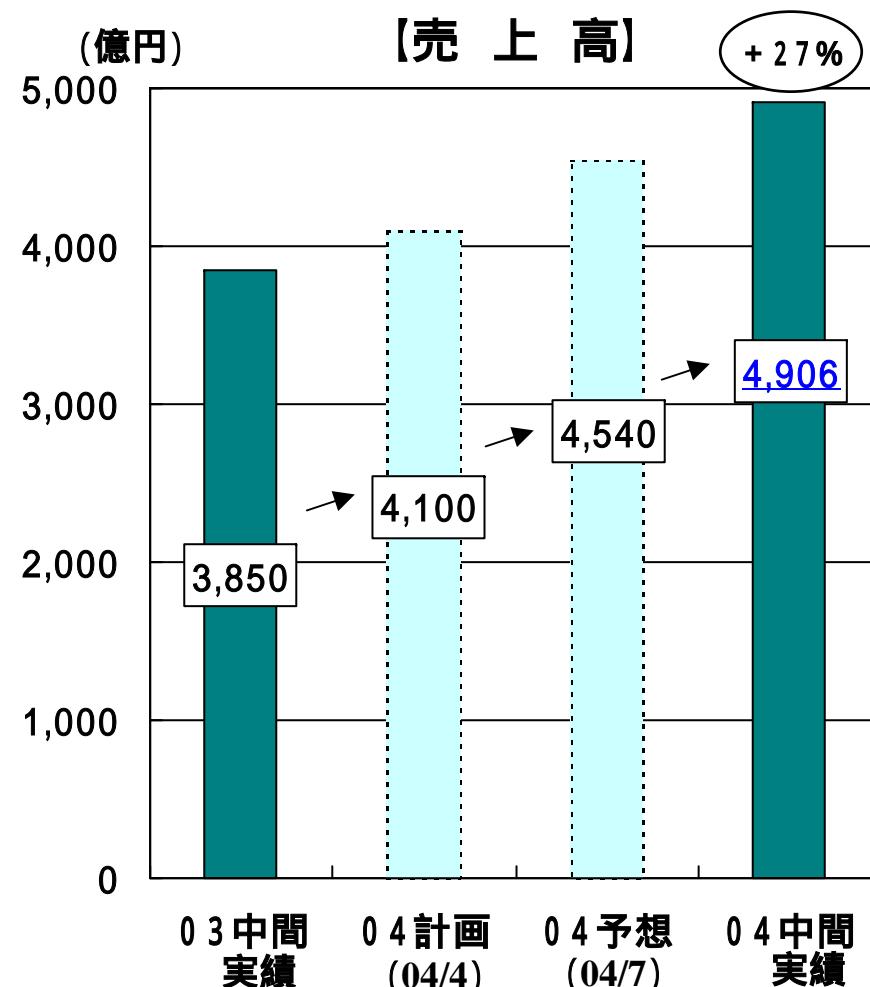
減損会計の前倒し適用

- ・財務体質の健全性向上を図る

2004年度中間期経営成績

自社製品の好調により大幅増益を達成

| <過去最高(半期ベース)> | |
|---------------|---------------------|
| 【売上高】 | 03下期 4,461億円(10%増加) |
| 【営業利益】 | 00下期 80億円(96%増加) |
| 【経常利益】 | 00下期 93億円(44%増加) |
| 【当期利益】 | 00下期 54億円(35%増加) |



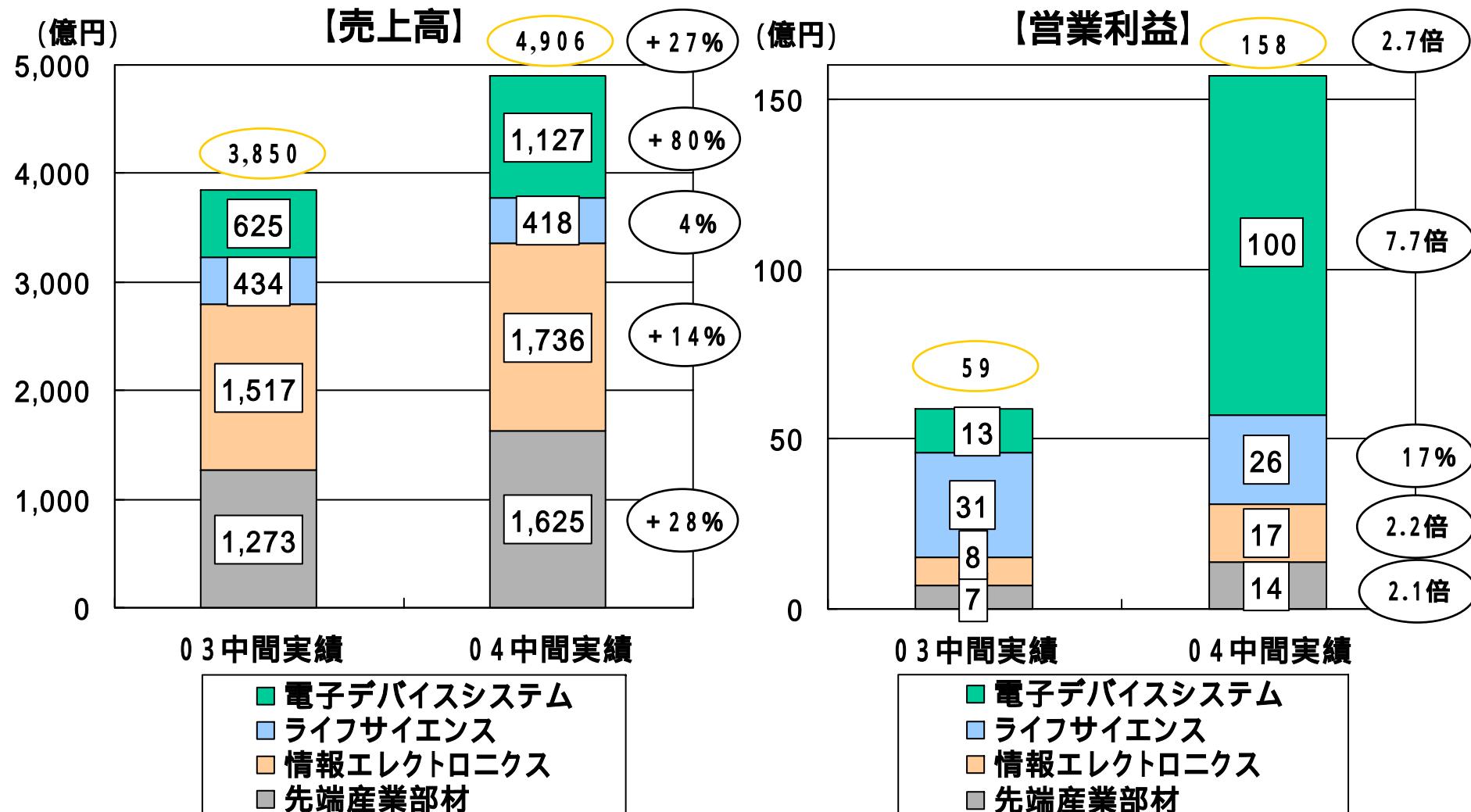
(注) * 04 計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

* 04 予想は、2004年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。

* %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別営業概況

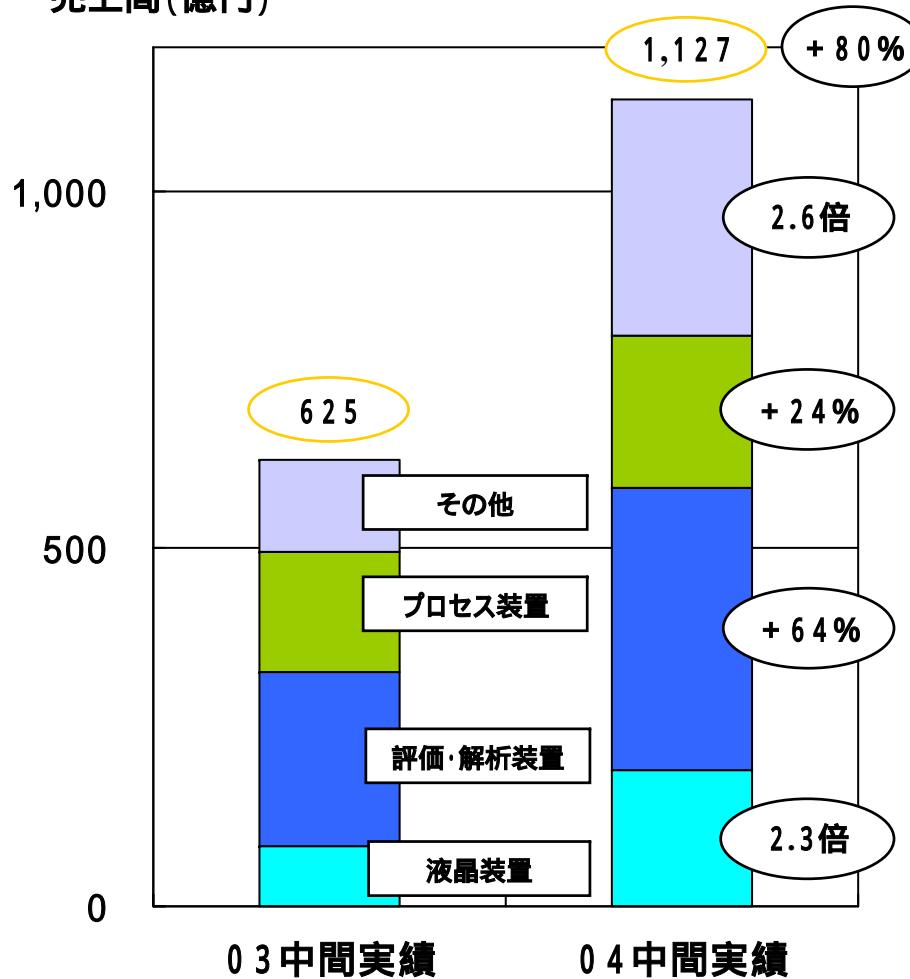
電子デバイスシステム、先端産業部材の業績が大幅に伸長



セグメント別主要製品群の動向(電子デバイスシステム)

自社製品(半装)(液晶)の拡大で業績大幅アップ

売上高(億円)



【プロセス装置】

・国内半導体メーカーの投資回復により増加

【評価・解析装置】

<測長SEM>

・韓国・台湾向けが好調

<外観検査装置>

・(DEC0)製品の拡充により増加

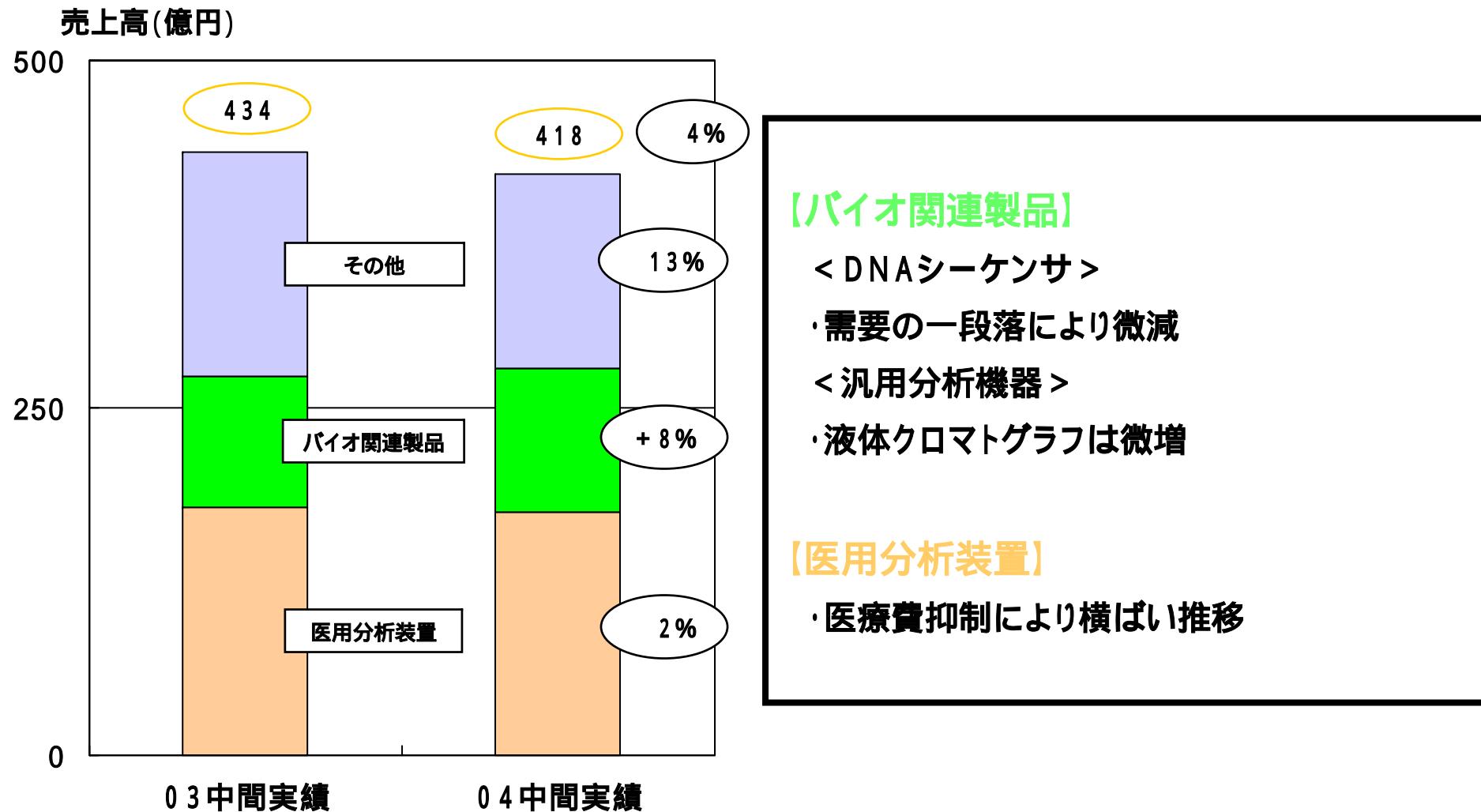
【液晶装置】

・アジア地域の液晶パネルメーカーの投資活発化により増加

(注) * %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向(ライフサイエンス)

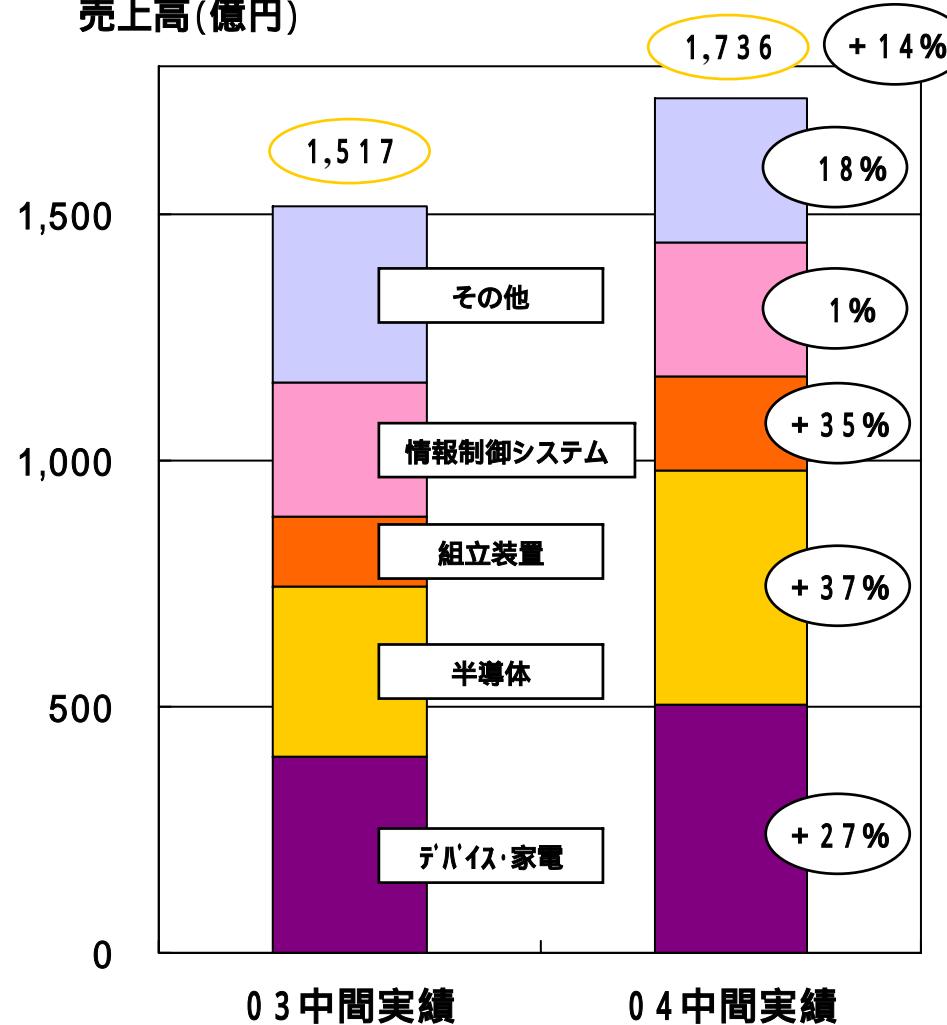
バイオ・医用分析装置ともに低迷



セグメント別主要製品群の動向 (情報エレクトロニクス)

半導体、チップマウンタ、有機EL製造装置が好調

売上高(億円)



【組立装置】

- <チップマウンタ>
 - ・中国を中心としたアジアでの活発な設備投資により増加
- <有機EL製造装置>
 - ・韓国・台湾向けが堅調

【半導体】

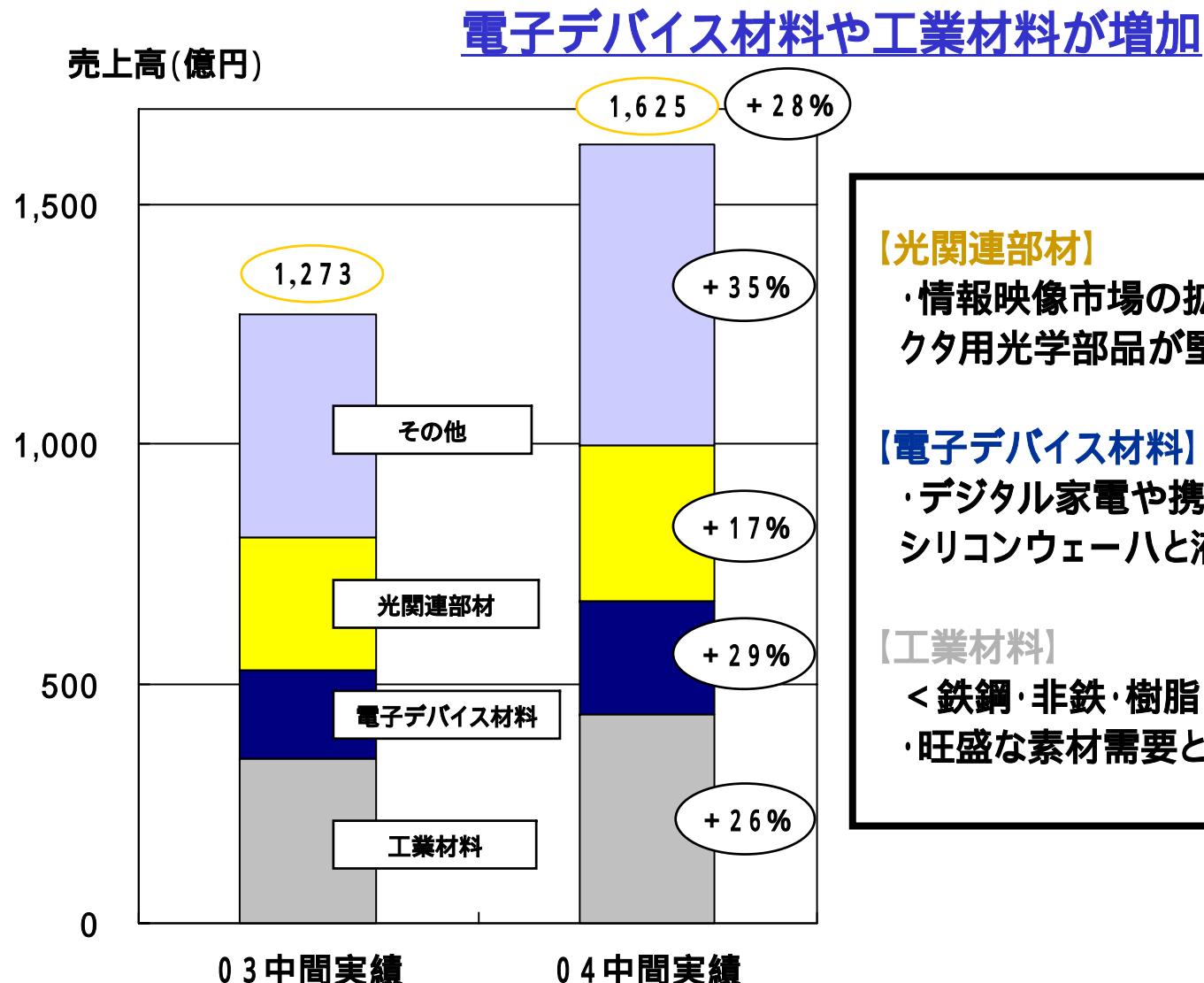
- ・アジア向け携帯電話用半導体が好調

【メディアデバイス・情報家電】

- <メディアデバイス>
 - ・TFT、二次電池等が増加

(注) * %は前年同期比増減率を表しています。

セグメント別主要製品群の動向 (先端産業部材)



【光関連部材】

- ・情報映像市場の拡大により、液晶プロジェクタ用光学部品が堅調

【電子デバイス材料】

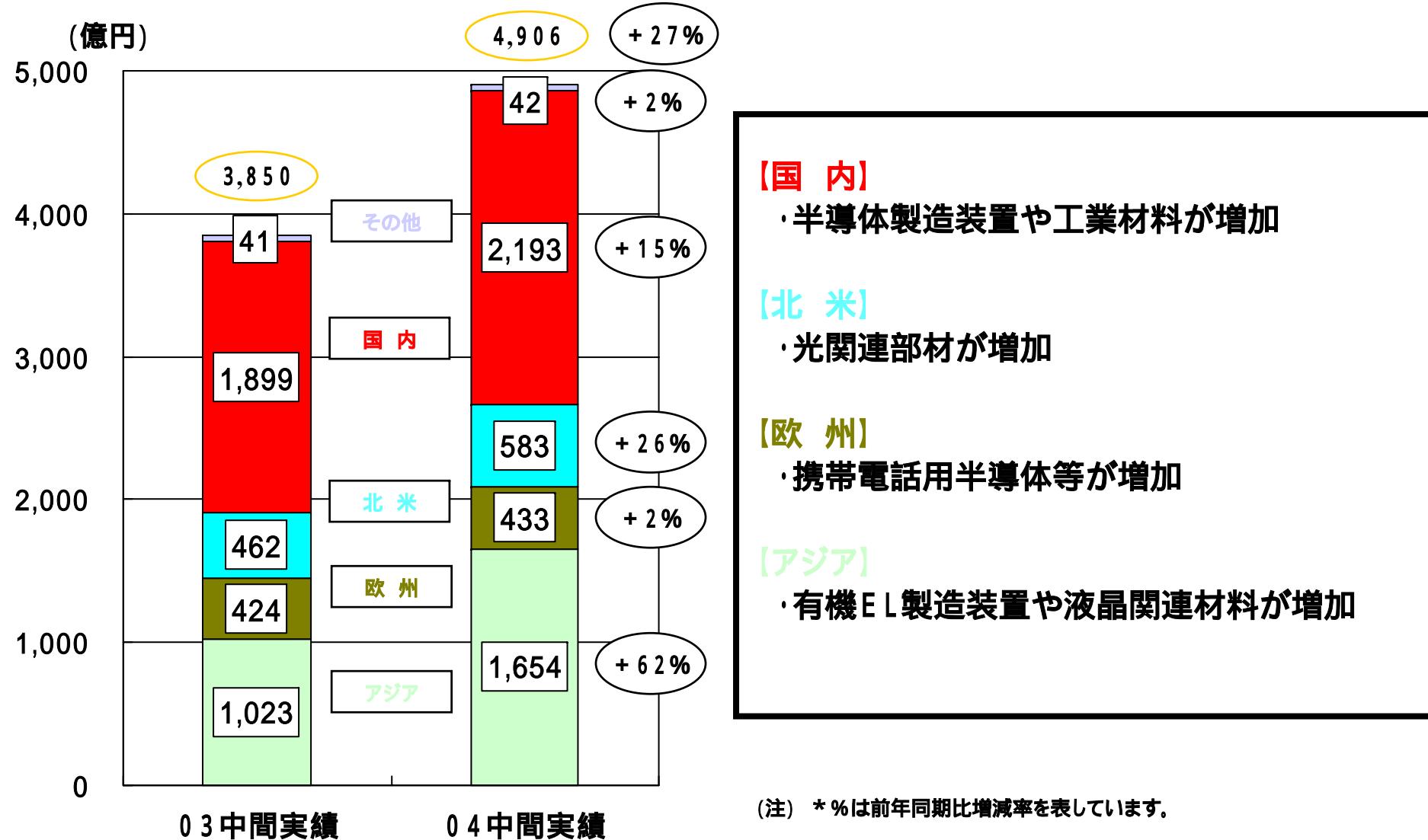
- ・デジタル家電や携帯電話の好調により、シリコンウェーハと液晶関連材料が増加

【工業材料】

- ・旺盛な素材需要と原料価格の高騰で増加

仕向地別売上高

電子デバイスシステムのアジア向け取引が増加



損益計算書

営業利益 158億円(前年同期比2.7倍)、当期利益 73億円(同2.5倍)

(億円)

| 科 目 | 04年度 中間期 | 03年度 中間期 | 前 年 比 増減率(%) | 前 年 比 増 減 額 | 主 な 増 減 要 因 |
|-----------|-------------|-------------|-----------------|----------------|----------------------|
| 売 上 高 | 4,906 | 3,850 | +27.4 | +1,056 | |
| 売 上 原 価 | 4,263 | 3,352 | +27.2 | +911 | |
| 売 上 総 利 益 | 642 | 497 | +29.2 | +145 | |
| 販 售 費 等 | 484 | 438 | +10.5 | +46 | (DECO)統合による経費増加 40億円 |
| 営 業 利 益 | 158 | 59 | 2.7倍 | +99 | |
| 営 業 外 収 益 | 16 | 9 | +81.0 | +7 | |
| 営 業 外 費 用 | 40 | 5 | 7.7倍 | +35 | 雑損失(棚卸資産評価損 25億円) |
| 経 常 利 益 | 134 | 63 | 2.1倍 | +71 | 厚生年金代行部分返上益 40億円 |
| 特 別 損 益 | 8 | 0 | - | 8 | 減損損失 56億円 |
| 税 前 純 利 益 | 125 | 63 | 2.0倍 | +63 | |
| 法 人 税 等 | 52 | 33 | +57.1% | +19 | |
| 当 期 純 利 益 | 73 | 29 | 2.5倍 | +44 | |

貸借対照表

自己資本 1,665億円、前年度比 60億円増加(自己資本比率 37%) (億円)

| 資産 | 04/9 | 04/3 | 増減要因 | 負債・資本 | 04/9 | 04/3 | 増減要因 |
|-------------|--------------|--------------|--|----------------|--------------|--------------|-----------|
| 流動資産 | 3,540 | 3,582 | 41 28 償還 30 商品 + 30 預け金 30 | 流動負債 | 2,492 | 2,625 | 133 |
| 現金預金 | 389 | 417 | | 買掛金等 | 1,780 | 1,883 | 103 |
| 売掛金等 | 2,341 | 2,346 | | 短期借入 | 213 | 270 | 銀行借入 94 |
| 有価証券 | 12 | 41 | | 未払費用 | 269 | 250 | |
| 棚卸資産 | 596 | 559 | | その他 | 230 | 222 | |
| 繰延税金 | 171 | 141 | | 固定負債 | 310 | 362 | 53 |
| 前渡金 | 16 | 18 | | 退職給付 | 288 | 327 | 代行返上 40 |
| その他 | 42 | 86 | | その他 | 22 | 35 | 長期借入 10 |
| 貸倒引当 | 27 | 26 | | 負債合計 | 2,802 | 2,988 | 186 |
| 固定資産 | 964 | 1,046 | 82 減損 56 | 少数株主持分 | 38 | 36 | + 2 |
| 有形固定 | 563 | 620 | | 資本金 | 79 | 79 | |
| 無形固定 | 109 | 114 | | 利益剰余 | 1,205 | 1,144 | 当期利益 + 73 |
| 投資他 | 293 | 312 | | その他 | 380 | 381 | |
| | | | | 資本合計 | 1,665 | 1,605 | + 60 |
| 資産合計 | 4,505 | 4,629 | | 負債・資本合計 | 4,505 | 4,629 | 124 |

キャッシュ・フロー計算書

借入金の圧縮

| 科 目 | 2004年度中間 | 主なキャッシュ・フローの増減要因 |
|----------------------|---------------|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | + 3 億円 | 税引前利益 125億円、減価償却費 44億円、 減損損失 56億円、仕入債務 115億円、 たな卸資産 58億円、法人税等 51億円 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | + 8 億円 | 運用債券の償還 30億円 投資有価証券の売却 6億円 有形・無形固定資産の取得 32億円 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 78 億円 | 短期及び長期借入金の返済 67億円 配当金の支払 10億円 |
| 現金等の増減 | <u>58 億円</u> | 現金及び現金同等物に係る換算差額 8億円 |
| 現金等の期末残高 | <u>388 億円</u> | |

. 2004年度 業績予想

執行役常務(経理本部長) 三澤 寛

2004年度業績予想

2004年度業績予想

<過去最高(年度ベース)>

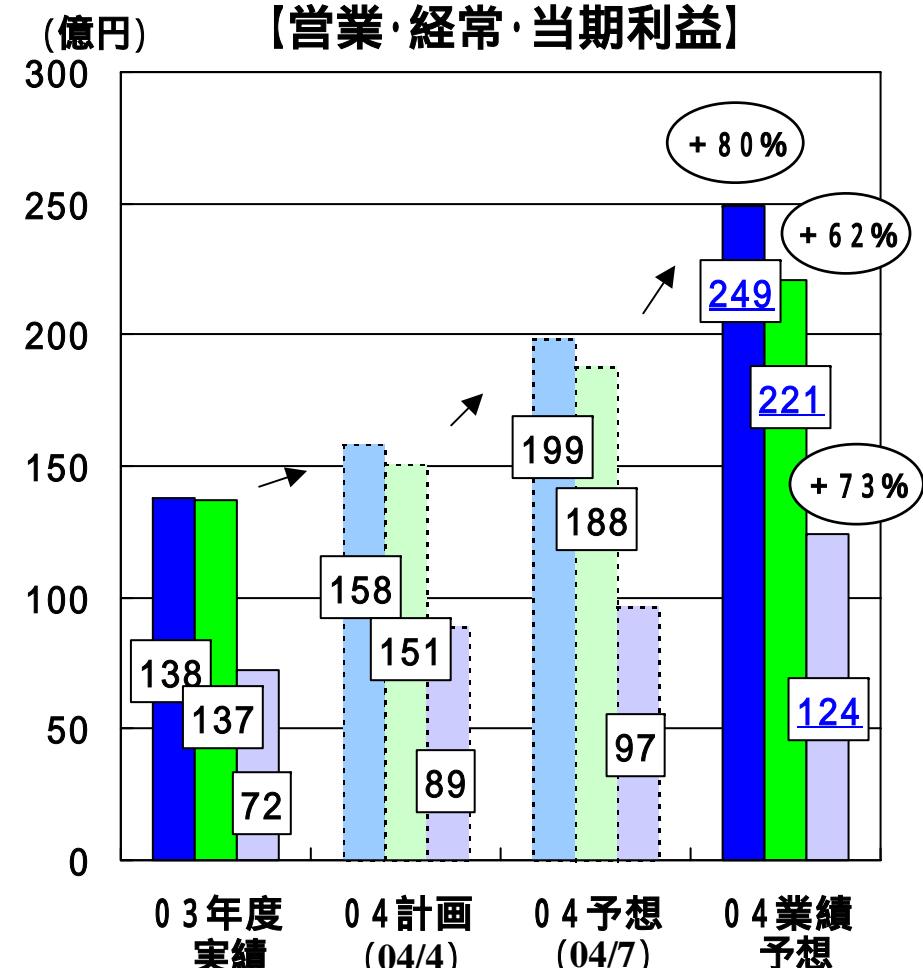
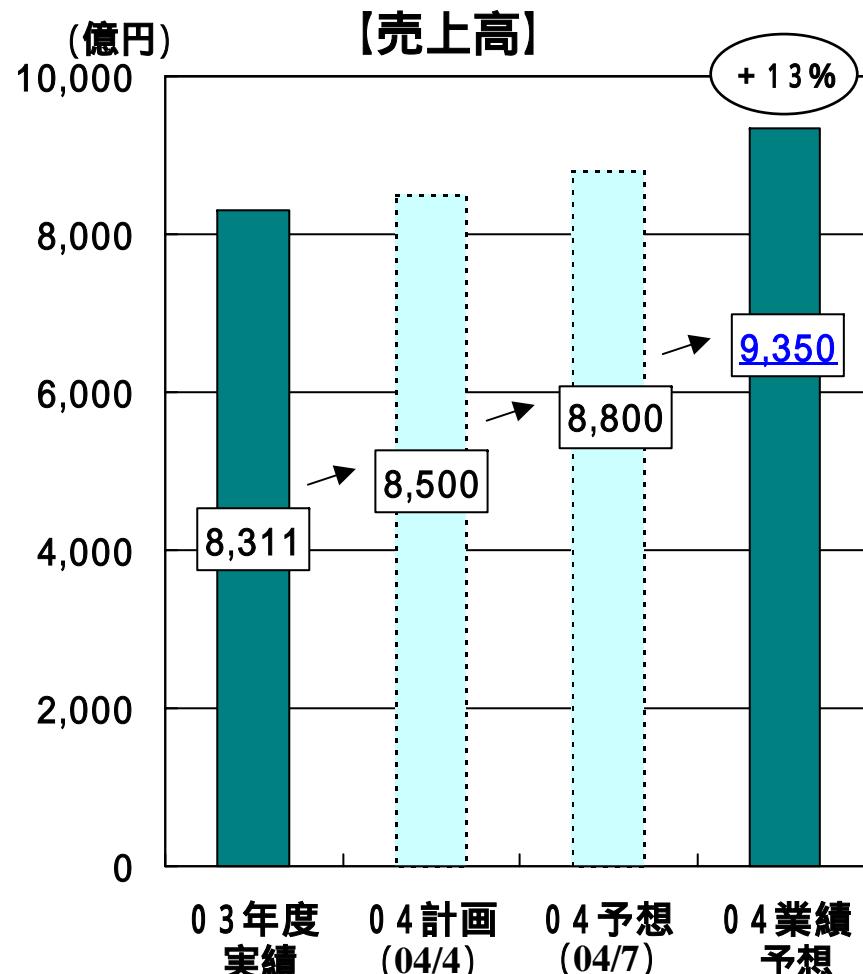
【売上高】 1996年 8,951億円(4%増加)

【営業利益】 2000年 147億円(70%増加)

【経常利益】 2000年 164億円(35%増加)

【当期利益】 2000年 77億円(61%増加)

全項目において、史上最高値を見込む



(注) * 04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

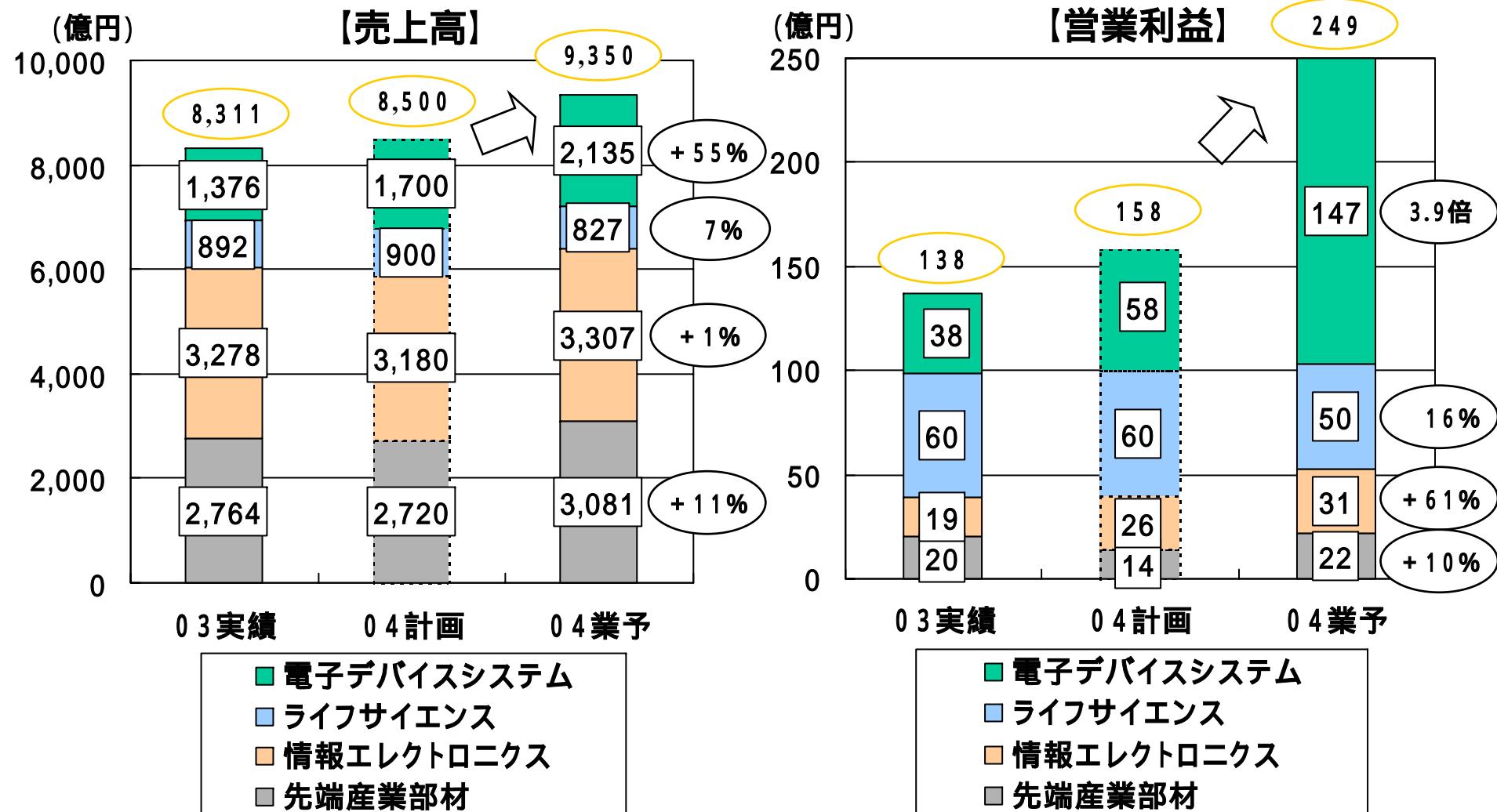
* 04予想は、2004年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。

* %は前年度比増減率を表しています。

■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期利益

セグメント別業績予想

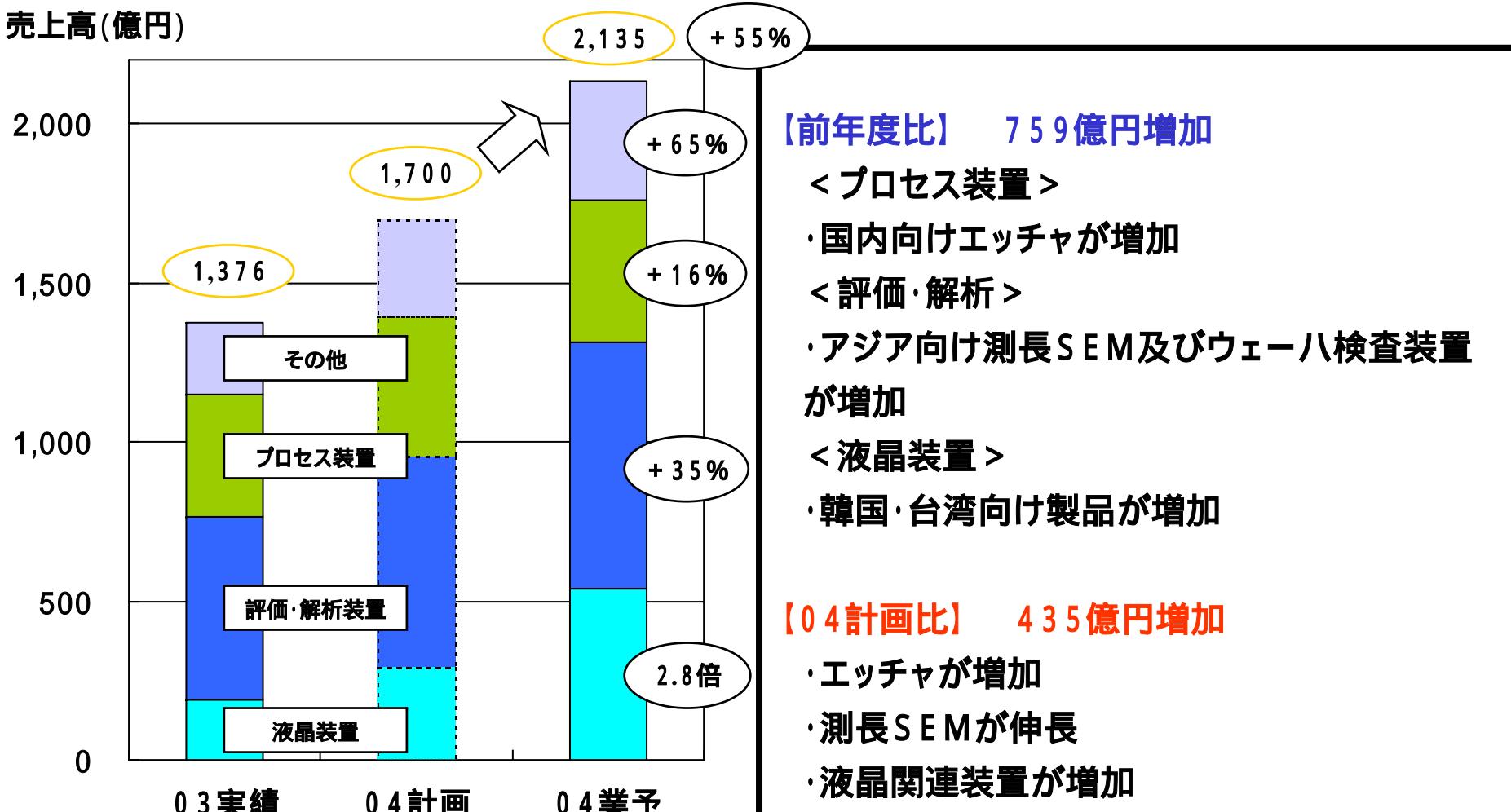
電子デバイスシステムの業績が拡大



セグメント別業績予想(電子デバイスシステム)

好調な市況と(D E C O)統合により業績が大幅向上

売上高(億円)



(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

* %は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(ライフサイエンス)

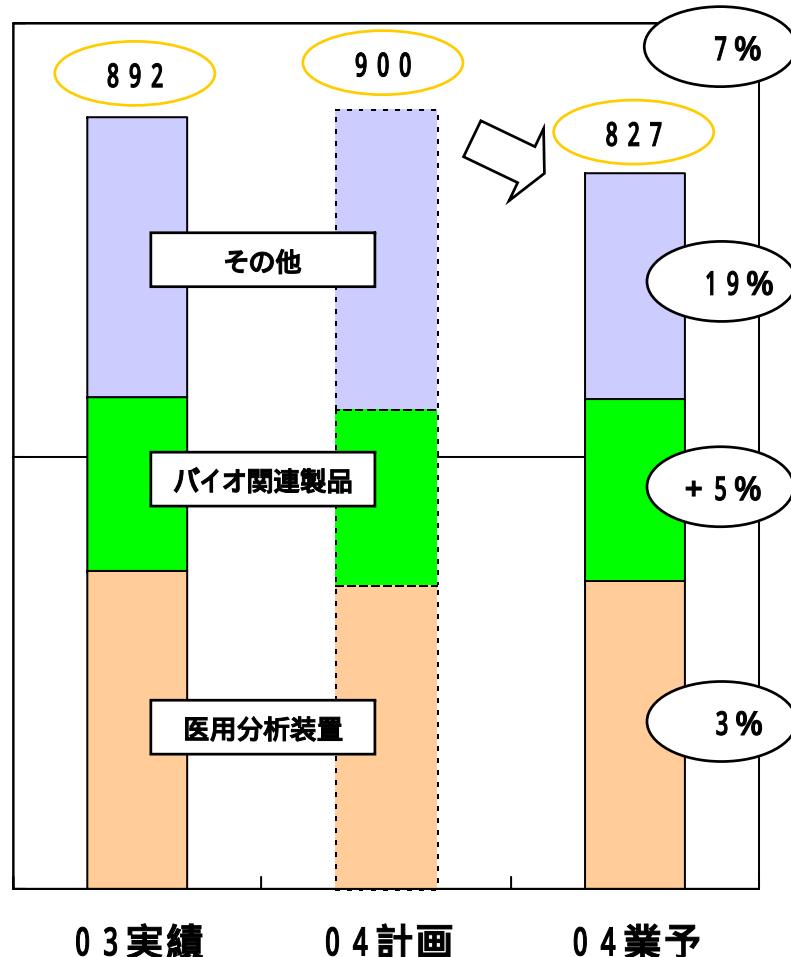
医用分析装置の伸び悩みから微減

売上高(億円)

1,000

500

0



【前年度比】 65億円減少

<バイオ関連製品>

・DNAシーケンサの需要一巡により横ばい

<医用分析装置>

・生化学自動分析装置が横ばい

【04計画比】 73億円減少

<その他>

・各種分析装置他が減少

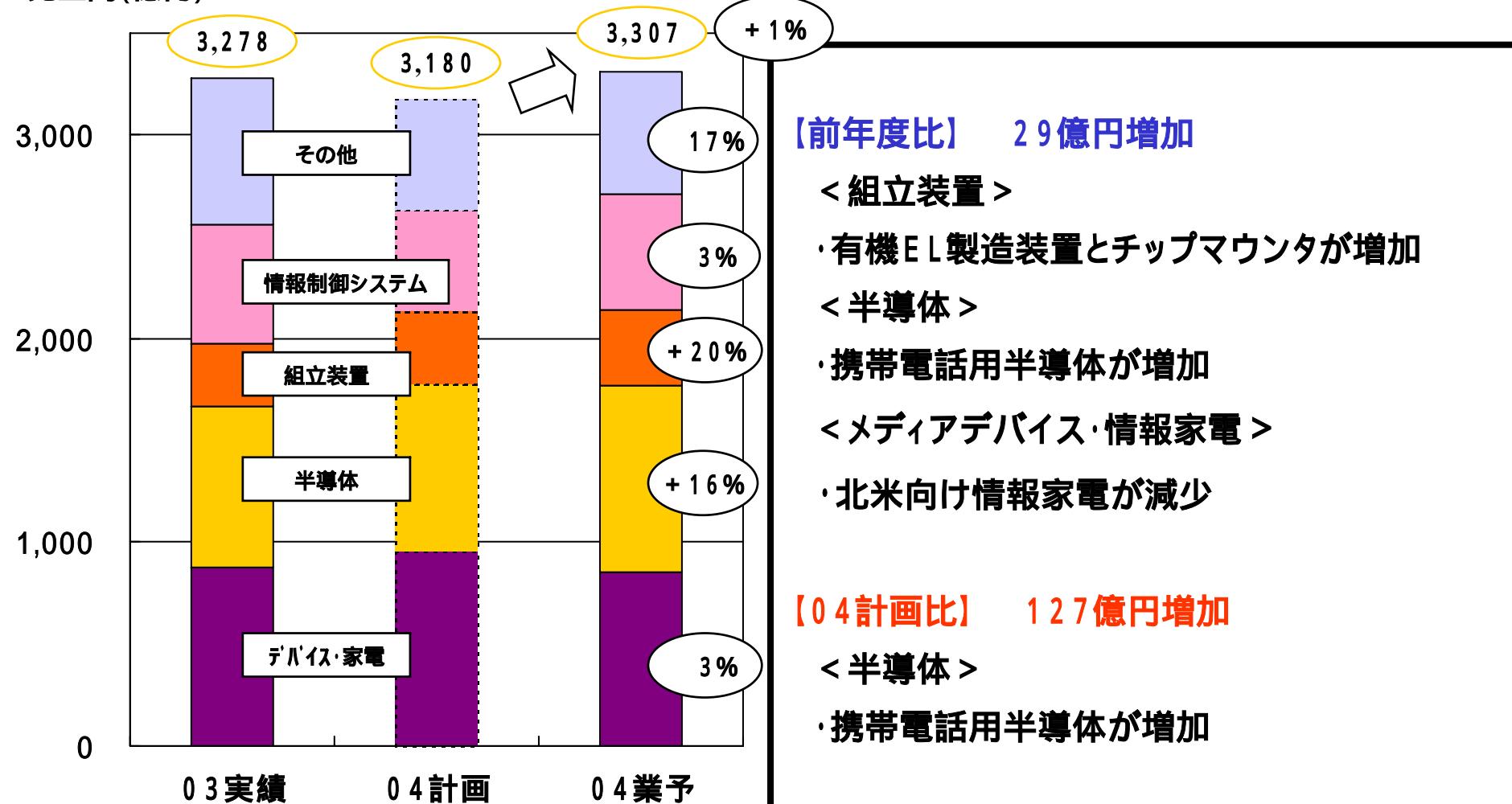
(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(情報エレクトロニクス)

組立装置及び半導体が好調

売上高(億円)



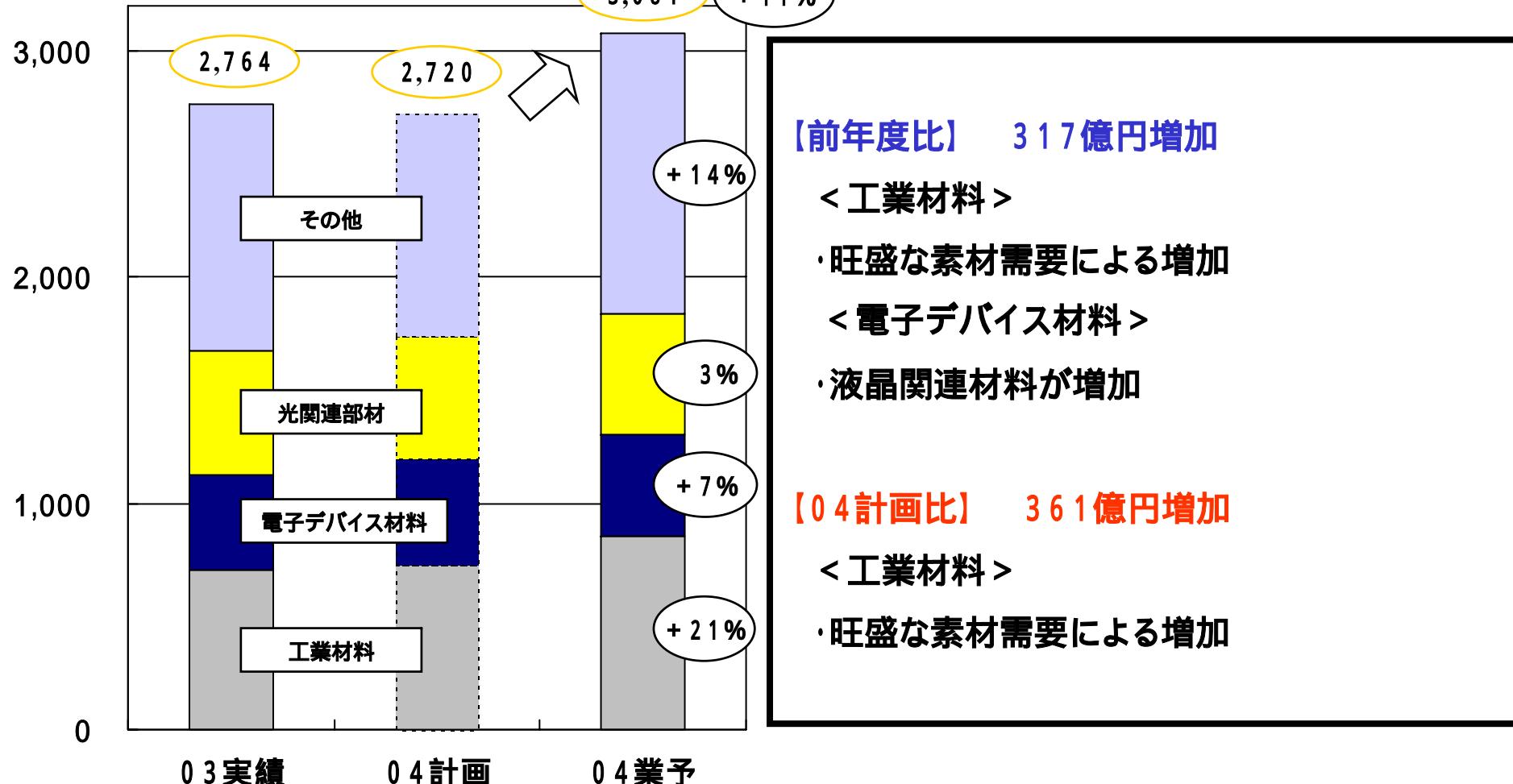
(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

セグメント別業績予想(先端産業部材)

旺盛な素材需要をうけ、工業材料が好調

売上高(億円)



(注) *04計画は、2004年4月の本決算発表時の見通しです。

*%は前年度比増減率を表しています。

. 経営戦略

執行役社長 林 將章

経営戦略

ー市場の伸びを上回る高成長・高収益企業の実現にむけてー

自社製品の高収益化

- ・「選択と集中」による収益力の向上
- ・日立の研究所や大学との連携による開発力の強化

商事部門のビジネスモデル転換

- ・付加価値付与型事業への転換

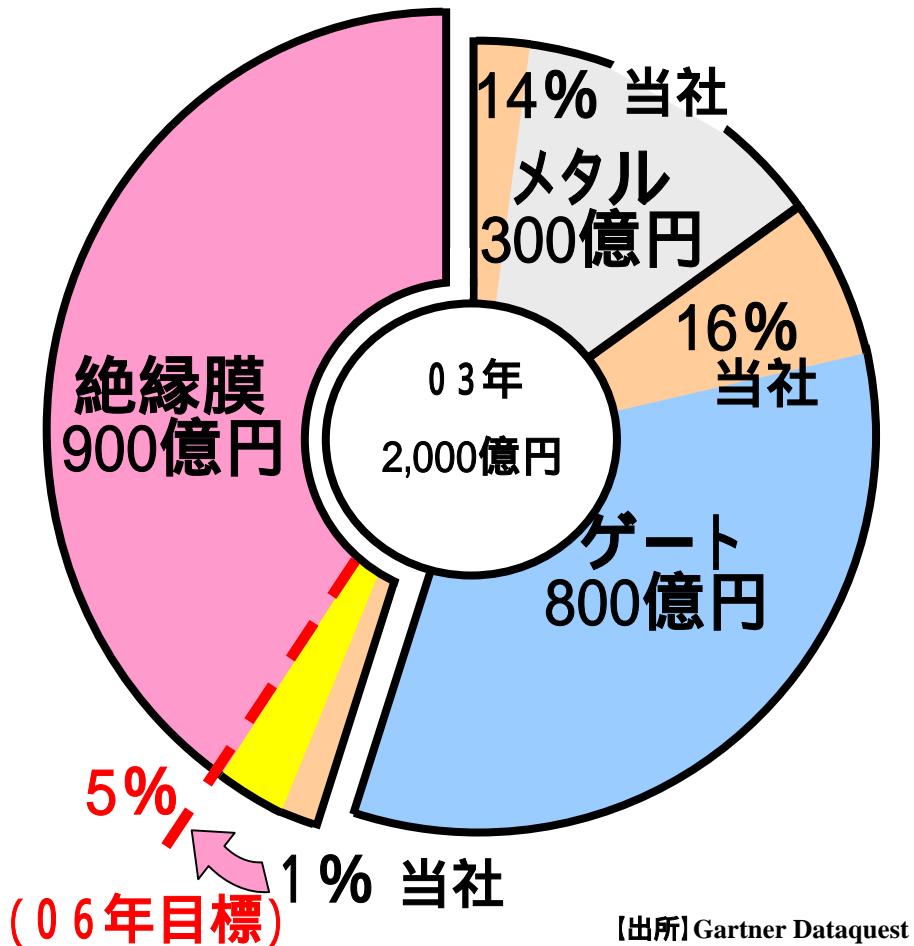
グローバル(特に中国)事業の拡大

- ・自社製品と商社機能を併せ持つメリットの有効活用

事業戦略(自社製品)

【エッチング装置】開発の重点化と絶縁膜機のシェアアップ

市 場



戦 略

市場環境に打ち勝つ事業体質の実現

開発の重点化

新製品の早期立上げと現有製品の高付加価値化

成長する絶縁膜市場でのシェア拡大

2003年度 1% 2006年度 5%

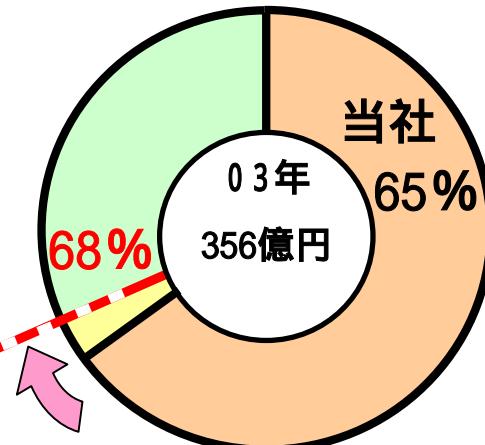
事業戦略(自社製品)

【半導体評価・検査装置】測長SEMの強化と次世代検査装置の育成

市場

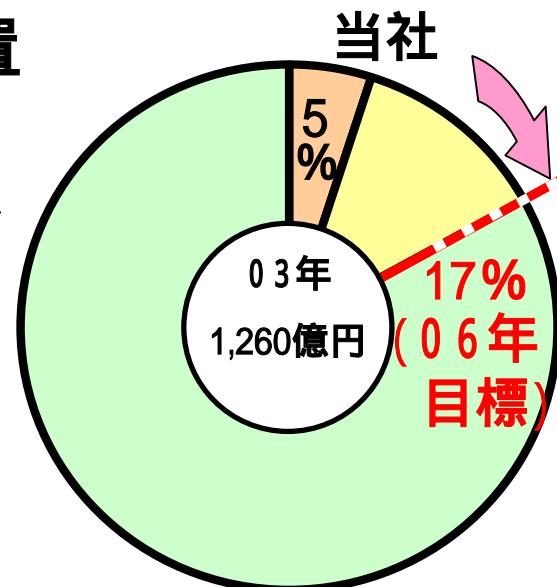
測長SEM

- ・高収益製品
- ・他社との競争激化
- (06年目標)



検査装置

- ・市場規模大
- ・シェア小



戦 略

測長SEM

一層の競争力強化によるシェアアップ

検査装置

開発力の強化とラインアップの拡充によるシェア拡大

事業戦略(自社製品)

【半導体評価・検査装置】ラインアップの拡充によるトータルソリューションの提供

半導体向けアプリケーション技術開発

オンライン評価 検査装置



測長SEM

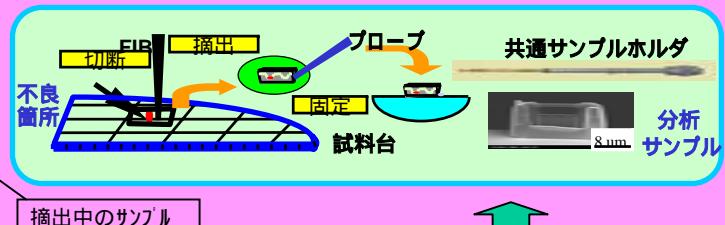
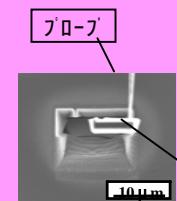


外観検査装置



異物検査装置

定評のある μ サンプリング技術で、オンライン
検査技術と解析技術をシームレスに連結



オフライン検査 解析装置



超薄膜評価装置



FIB



SEM

LSI健康管理の総合病院化

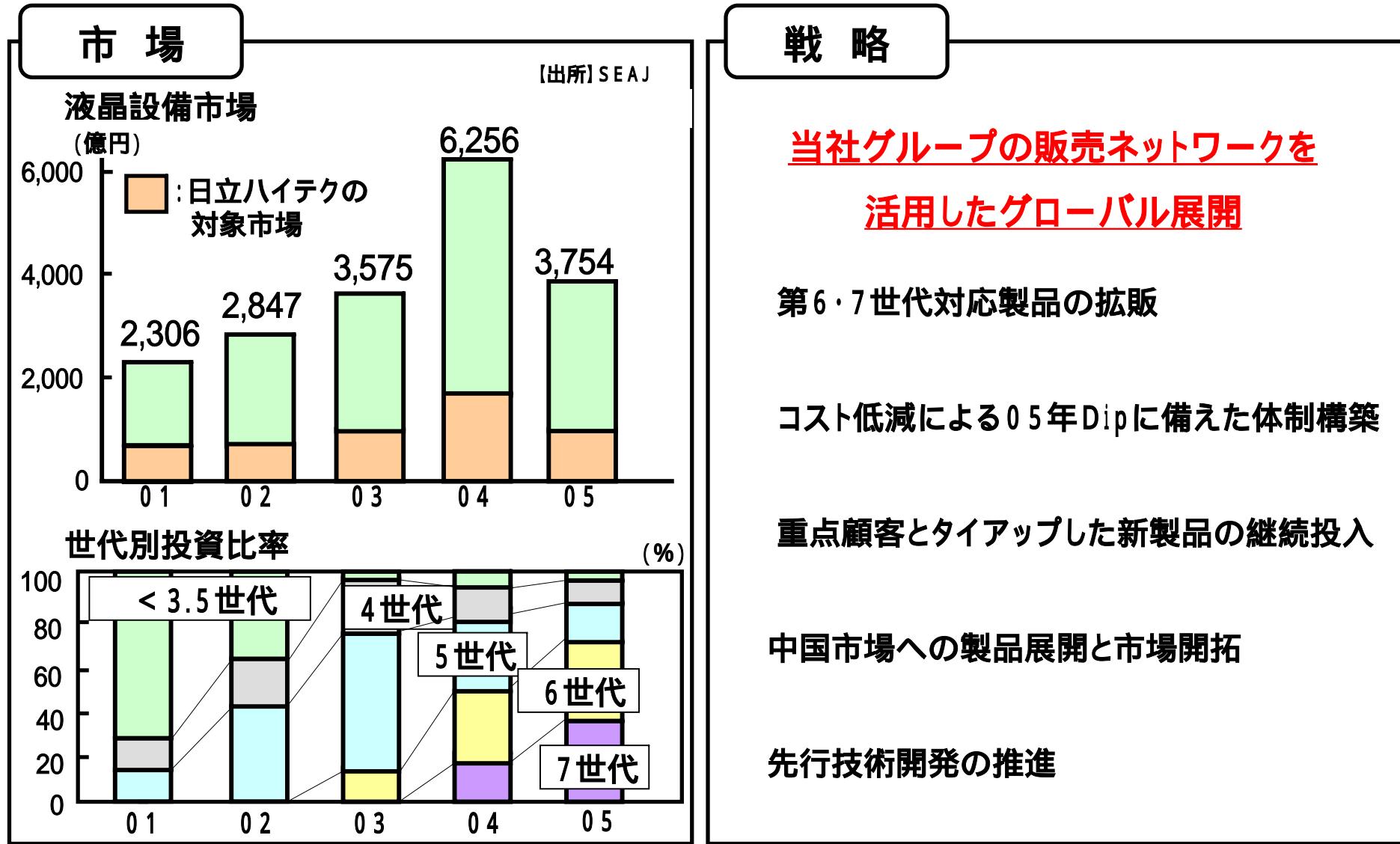
【日立ハイテク】評価検査 解析装置のラインナップ

日立ハイテク
A社
B社

| 計測 | 測長SEM 合せ精度測定 | ■ | ■ | ■ |
|--------|--|---|---|---|
| 検査 | 異物検査装置 光学式外観検査 SEM式外観検査 面板検査装置 | ■ | ■ | ■ |
| レビュー装置 | 欠陥レビュー-SEM 原子間力顕微鏡 | ■ | ■ | ■ |
| 管理システム | 歩留管理 | ■ | ■ | ■ |
| 解析装置 | 評価用SEM 断面観察SEM 超薄膜評価装置 FIB TEM | ■ | ■ | ■ |

事業戦略(自社製品)

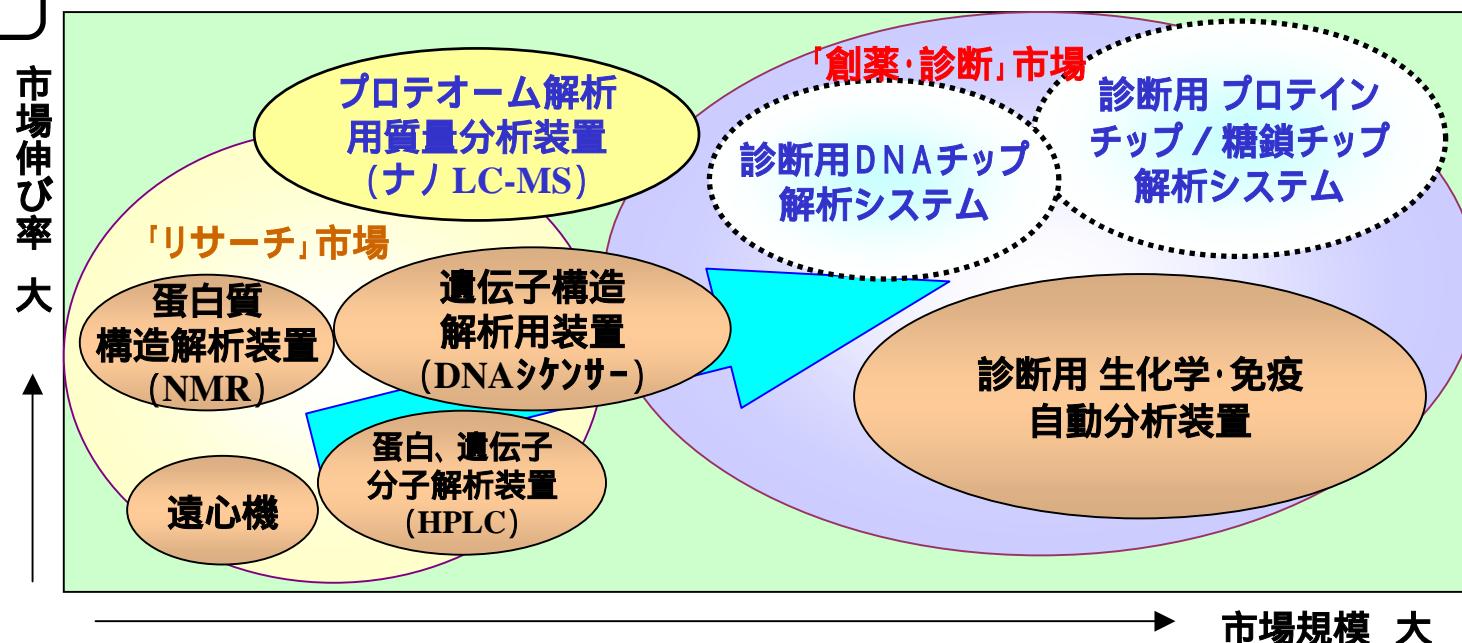
【液晶関連装置】次世代対応製品の拡販によるDipへの対応



事業戦略(自社製品)

【ライフサイエンス】「創薬・診断」市場に向けた新製品の開発

市 場



戦 略

プロテオーム解析用質量分析装置の立ち上げ
試薬メーカーとのアライアンスによる試薬・装置のシステム販売
心臓磁気計測システムの販売開始

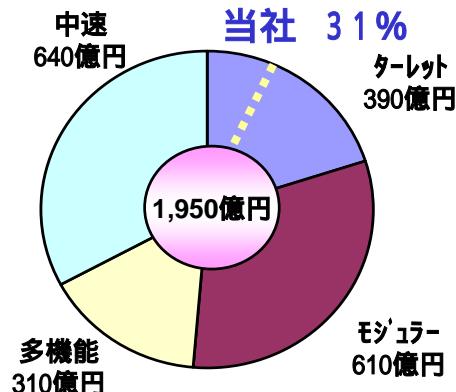
事業戦略(自社製品)

【チップマウンタ】ターレットとモジュラーでチップマウンタ事業を拡大

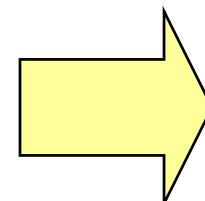
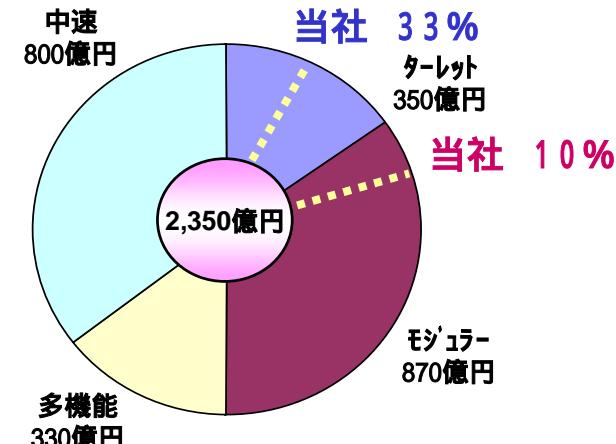
市 場

【チップマウンタ市場(タイプ別出荷金額)】

2003年度



2005年度



【出所】日本ロボット工業会

戦 略

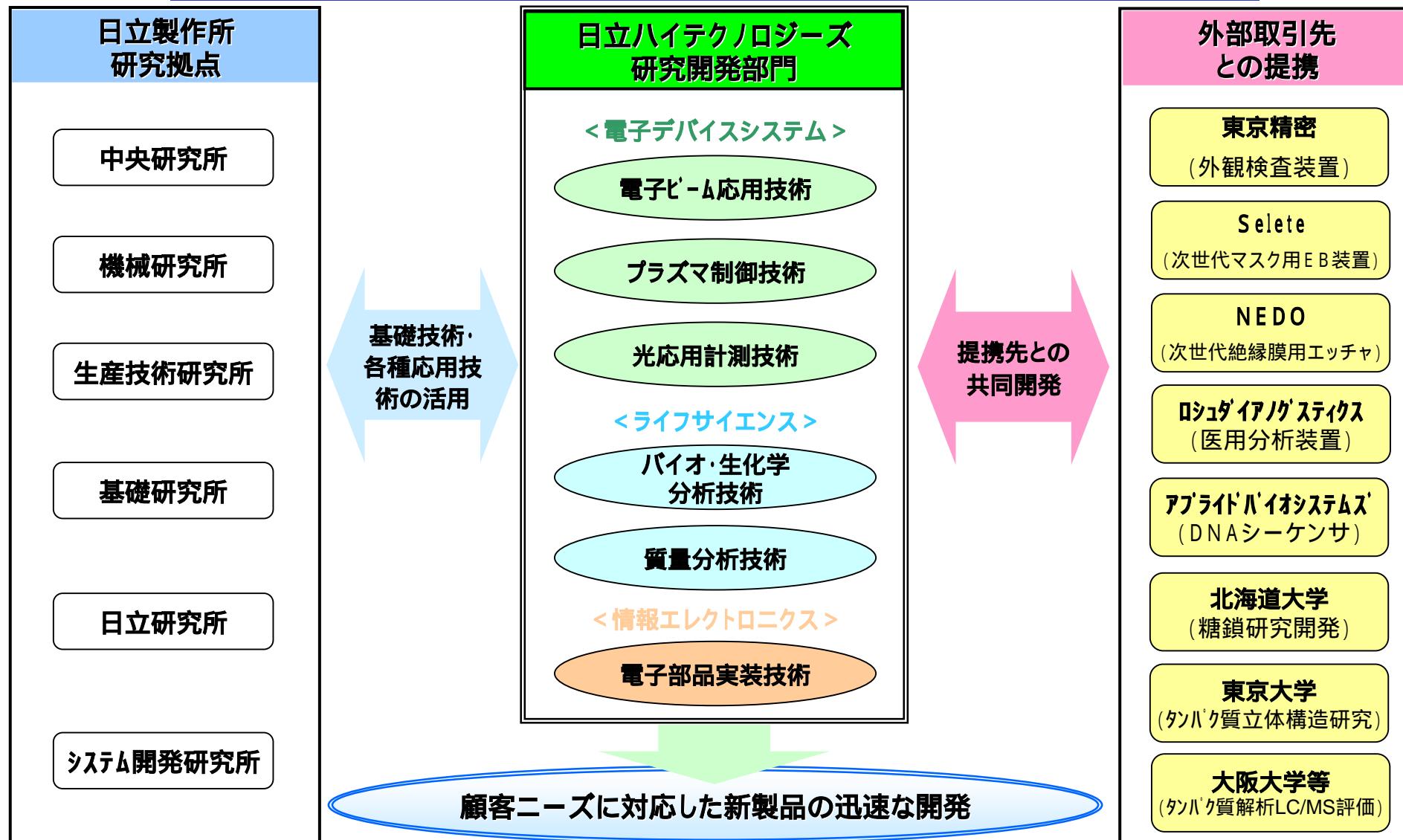
【2強製品体制の確立】

ターレットマウンタ「TCM-Xシリーズ」の拡販(特徴 : 高スループット、極小チップの高精度実装)

モジュラーマウンタ「GXH-1」の市場投入 (特徴 : 高スループット、高品質実装能力)

事業戦略(自社製品の研究開発体制)

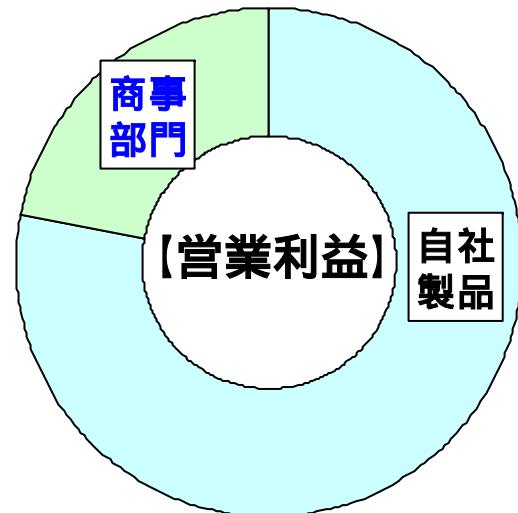
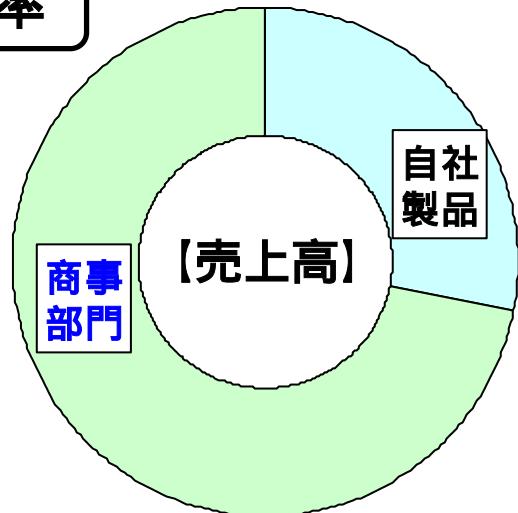
日立の研究所及び外部提携先との連携による迅速な新製品開発



事業戦略(商事部門)

「付加価値付与型事業」へのビジネスモデル転換による収益性の向上

構成比率



課題

<課題>

商権確保と収益性の向上

仲介型業務からの業務転換

<戦略>

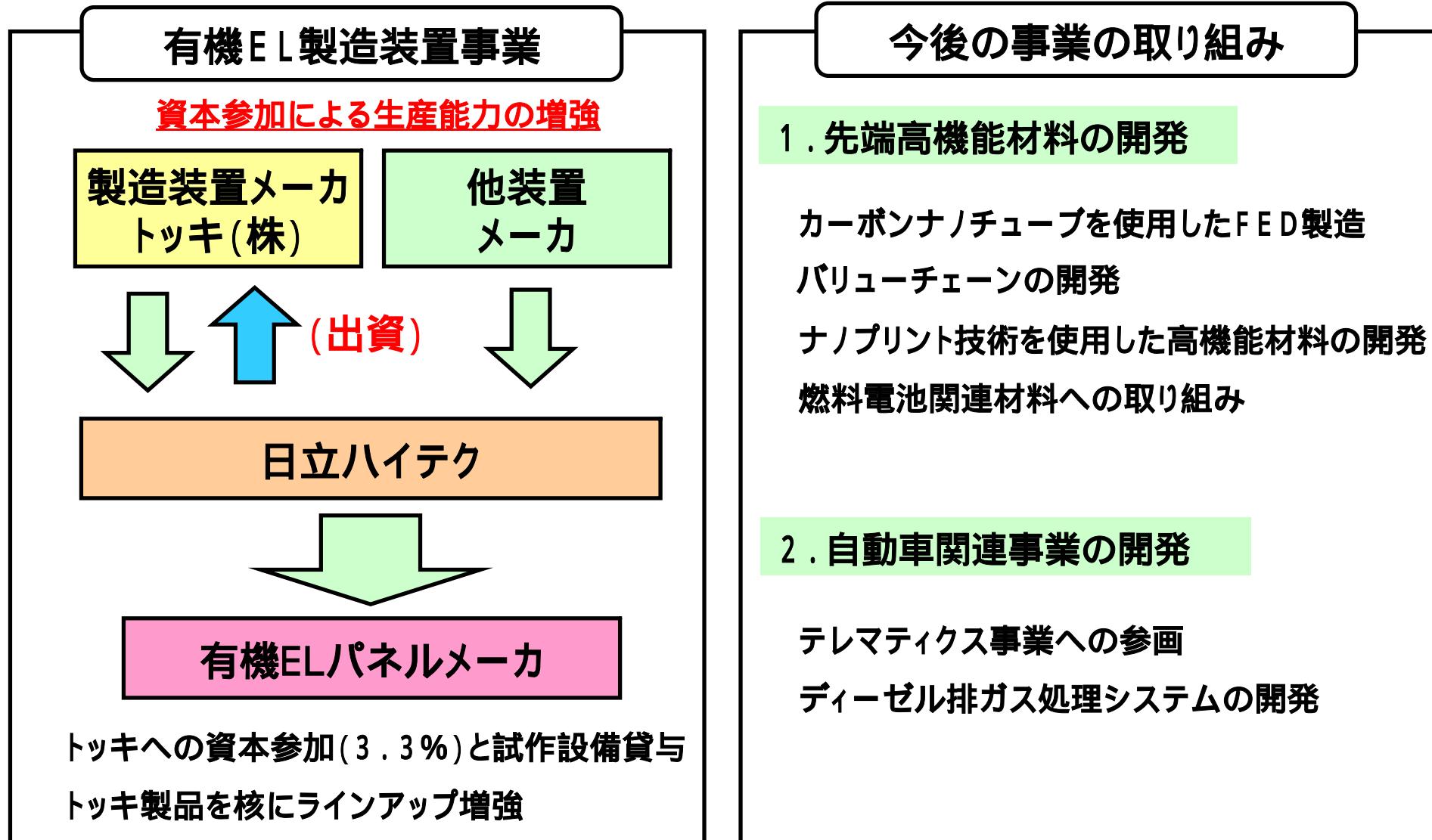
ビジネスパートナー(顧客・仕入先)との
アライアンスによる「付加価値付与型事業」

へのシフト推進

(出資、融資、共同開発、設備貸与、製造、
保守サービス等)

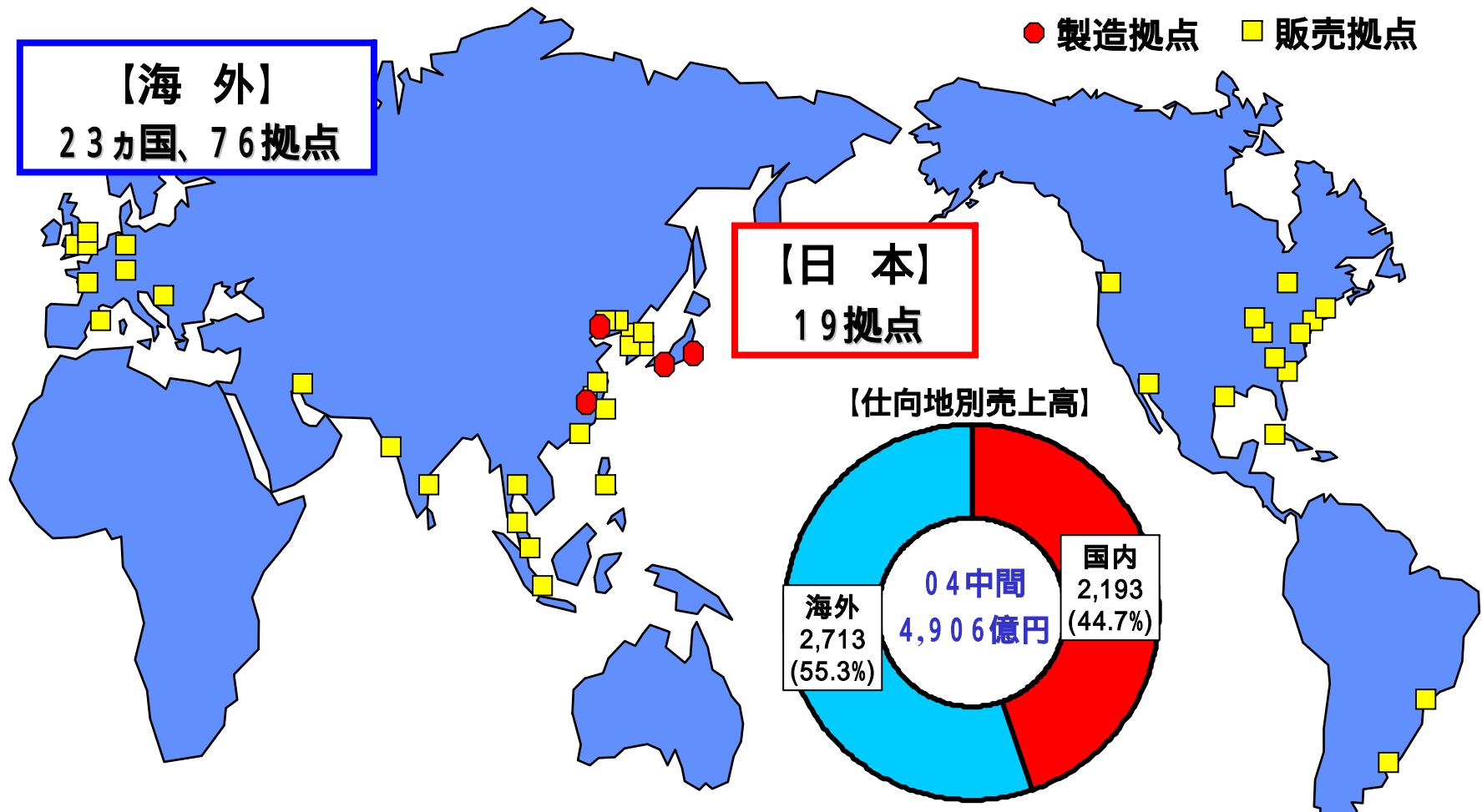
事業戦略(商事部門)

【具体例】「付加価値付与型事業」



事業戦略(グローバル事業の拡大)

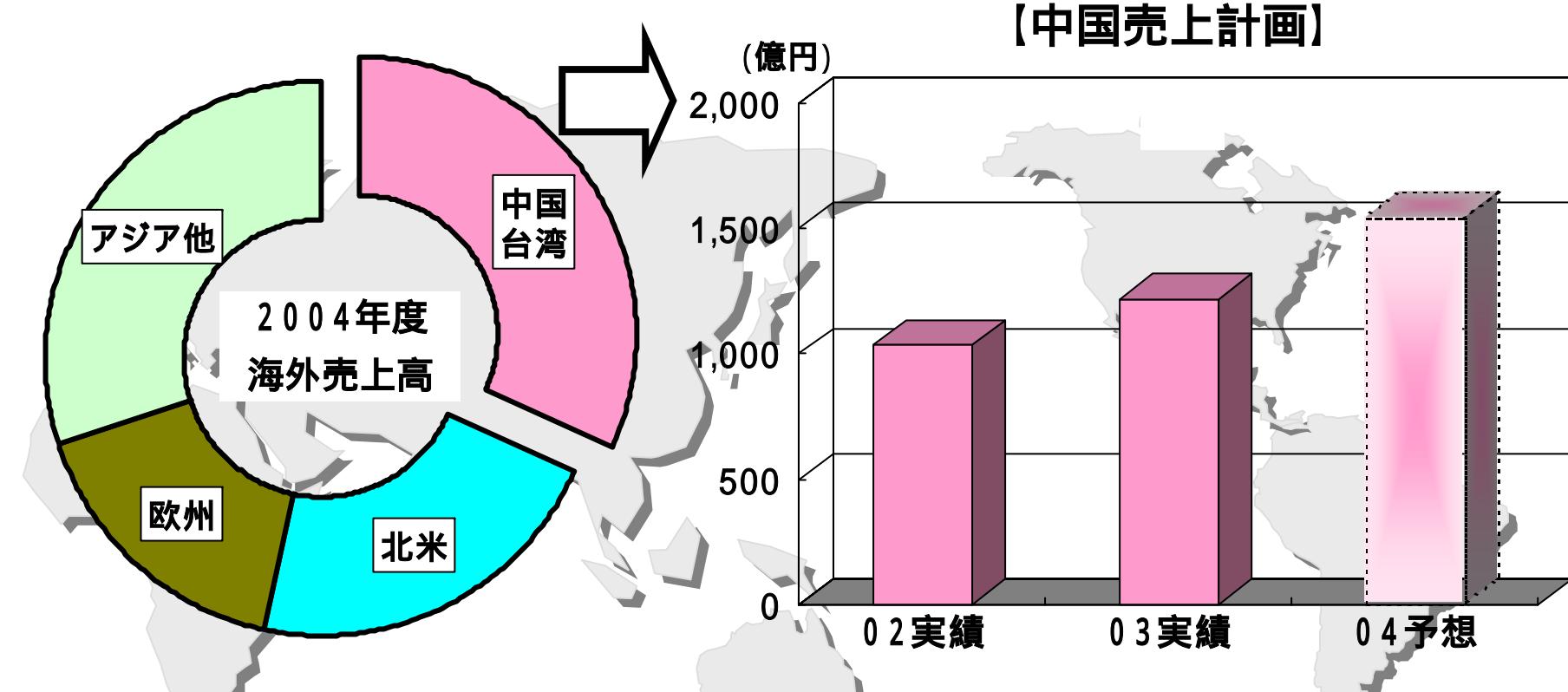
最先端情報を活用した開発の促進とグローバル事業展開



製造拠点とグローバル販売拠点の情報ネットワーク

事業戦略(中国事業の拡大)

成長市場の中国地域への積極的な事業展開



地域戦略と個別事業戦略を組合せた機動的展開(販売・調達・生産)

CEPA / 新外資企業法に基づく国内流通業、貿易・サービス事業への進出

CEPA : Closer Economic Partnership Arrangement (04.4 施行) 新外資企業法:外商投資商業領域管理弁法 (04.6 施行)

<資料取り扱い上の注意>

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、すべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、円単位で計算しています。

「**経営戦略**」での**2005年度業績及びシェア**は、今回の**2004年度業績予想**とは別の**【参考計画値】**です。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがいまして、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上